

◆ 顕彰碑建立

原菊枝の革命的生涯とその火を継ぐ

小日向昭一

136

——「原菊枝顕彰碑」建立によせて

治安維持法犠牲者・長谷川テルの顕彰事業の更なる発展を

田辺 実

143

——「長谷川テル訪問記念の碑」建立実現、除幕式の成功を受けて

同盟活動シリーズ

わが同盟活動をどう切り拓くか——北海道の実践を通して

畠山 忠弘

149

埼玉同盟の新たな歴史を築くために——到達点と教訓

大野 辰男

153

情勢に負けない・平和の基礎体力作りに貢献する大阪上映運動

中田 鉄夫

156

映画上映運動の経過と成果を第3次上映に

田中 鉄夫

161

権力に抗して声をあげた乙女がいた

尾西 洋子

164

☆資料コーナー・18歳意識調査——国や社会に対する6カ国比較

★会員交流

読者ハガキから

167

※表紙版画(北海道・沙留川) 豊川弘道

■ 巻頭論文

歯止めなき軍事国家日本を憂う

——いまこそ歴史の教訓を踏まえる時

山口大学名誉教授 瀬瀬 厚

甚大な戦争被害

一九四一年二月八日。その日の早朝、午前二時一五分頃、日本陸軍の佐美支隊がタイ領のコタバルに上陸。

それに遅れること一時間

半余り。今度は日本海軍

の連合艦隊がハワイ真珠

湾を奇襲する。こうして

始まった対英米戦争は、

すでに始まっていた日中戦争と一体となって、戦後に一括してアジア太平洋戦争と呼称されることになった。

一九四五年八月一日、日本は連合国側から発せられたポツダム宣言を受諾。停戦となった。そして、同年九月二日に連合国側と休戦協定に調印し、一九五一年九月八日、サンフランシスコ講和会議で講和条約が調印され、

それが発効した一九五二年四月二八日に、ようやく戦争終結となった歴史事実を忘れてはならない。アジア太平洋戦争の起点を一九三一年の満州事変とすれば、それから

実に二〇年余りにわたり、連綿として日本は戦争状態に



瀬瀬 厚氏